

レーザーコンパス

所 感

森 村 正 直*

Masao MORIMURA *

かれこれ30年以上も昔の話になるが、故山内二郎先生の命を受けて学術用語計測工学編の編纂をお手伝いするようになった。完成まで20年近くかかったが、計測工学が基本的に横断的な学問であることから広い分野の専門家の先生方が委員として参加されたので、その間色々教えられることがあった。外来語をなるべく日本語で表そうというのが当時の方針の一つであったが、苦心したのは当用漢字による表現の制限である。砥石が使えないのでと石とせざるを得ず、油と石では意味が通じないと笑ったこともある。

最近、学術用語の見直しが行なわれており、その一環として計測工学用語も昨年度からその作業が始まり、再びこの仕事にタッチすることとなったが、以前から用語について気になっていることが一つあるので、この場をお借りして拙見を述べたい。

それは(thermal) radiationに対する用語である。学術用語では、物理学用語でも、電気工学用語でも、計測工学用語でもすべて(熱)「放射」を採用しているが、当用漢字から常用漢字に拡張されさらにそれによる制限が緩和されてきている現在、(熱)「輻射」を復活させようとする機運が見られるように思える。確かに明治の時代から使い慣れた用語だから、物理屋さんには特に

「輻射」にノスタルジアを持っているようで、なぜ「輻射」を使ってはいけないんだと聞き直る風情がある。そして「輻射」の正当性として、「輻」は車のスポークを表していてradiationを巧みに表現していると主張する。しかしながらその説明を聞いても納得できないのは、牛車でも自転車でも車は平であるが、一方、2次元に限られた熱放射というのが実体として考えられないからである。3次元の「輻」はあまり聞いたことがない。仮に、球形の車があったとしてもそれはあまりポピュラーではない。

Electromagnetic radiation が「輻射」だったらアンテナを超高速でぐるぐるまわさないとテレビも見られまい。横多モード発振している半導体レーザーから出ている光の方がむしろ輻射と言えるかも知れない。

辞書によればradiateには中心から出る、あるいは拡散するという意味がある。別に波とか粒子とかの限定はない。ワシントンDCの様に、国会議事堂を中心として車のスポーク状に道路が作られているのを、放射状と言っても輻射状とは言わない。

どうしてそんなにこだわるのかと言われるかも知れないが、最近、安易に英語を日本式に発音してカタカナで表記することが多いことが気になる一方、専門用語には一般には滅多に使わ

* 光計測技術開発(株) (〒180 東京都武蔵野市中町2-11-13)

* Optical Measurement Technology Development Co. Ltd. (2-11-13 Nakachō Musasino, Tokyo 180)

(970)

所 感

平成2年12月

ない難しい表現を採用する傾向が昔から強いことも気になるからである。前者は思考の停止であり、後者は権威主義でありいずれも科学の健全な発展を妨げるものである。

西洋科学の発展の原動力となったのは知的好奇心であると思うが、我が国に導入するときにこの動機づけが忘れられ、実験に基づいて考察を進めるという方法論が理解されず、紙の上の

知識が偏重されたのではなかろうか。その結果、知識を先取したものが優位に立つようになり権威主義が生まれ、自由な発想が妨げられて批判精神が育たないようになる。大分、大上段に構えた論議になったが、ここで言いたいのは、事物の本質を理解する助けになるような用語を使いたいということである。そこから柔軟な思考が生まれるのではなかろうか。